

児童相談所を設置へ

中核市移行で市が方針

明石市の泉房穂市長は1日、2018年4月を目標に定める中核市への移行に伴い、児童相談所と動物愛護センターを設置する方針を表明した。いずれも法的な設置義務はないが、泉市長は「市有地や既存施設を活用して市民サービスの向上を目指したい」と述べた。

児童相談所は、現在も担っている非行や不登校などについての相談を受けるほか、虐待を受けた子などを市長権限で一時保護できる機関。都道府県と政令市のほか47中核市のうち、現在は金沢市と神奈川県横須賀市が設置している。

動物愛護センターは犬や猫の引き取りなどを行う。現在は三木市にある県動物愛護センター支所が担い、多くの中核市も設置している。明石市の施設は殺処分ゼロを目指す。両施設の設置時期や場所は未定。中核市への移行に伴い、市は保健所を市立産業交流センター(大久保町ゆりのき通1)に設置する方針もすでに表明している。

(井原尚基)